

病害虫防除所情報第4号

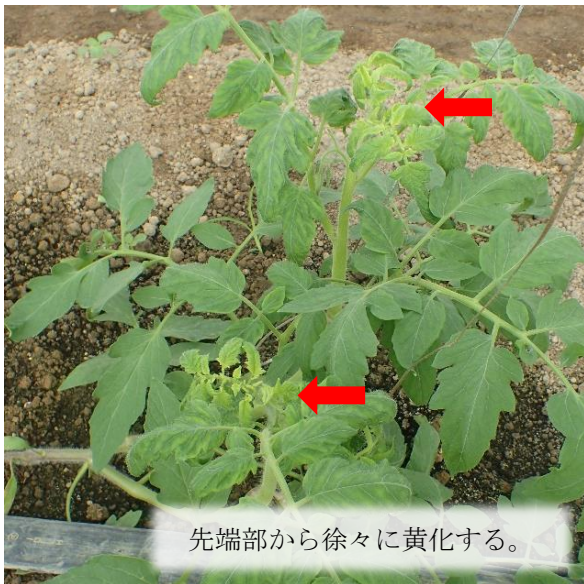
令和5年9月29日
山梨県病害虫防除所

【施設栽培トマト（抑制）の黄化葉巻病対策について】

[発生状況と今後の予想]

- (1) 県内の施設栽培トマト（抑制）におけるトマト黄化葉巻病は平年と同程度の発生が見られている。
本病の病原ウイルスはトマト黄化葉巻ウイルス（以下、TYLCV という。）で、コナジラミ類の一種であるタバココナジラミにより媒介される。
- (2) 抑制作型の生育期にあたる9月のコナジラミ類成虫誘殺数は、施設内で2.00頭/日・枚（平年値：0.72頭/日・枚）、施設外で11.08頭/日・枚（平年値：3.5頭/日・枚）と平年より多かった。
- (3) 気象庁の1か月予報（9月28日発表）によると、向こう1か月の気温は高く、降水量はほぼ平年並の見込みであるため、コナジラミ類の発生は引き続き多いと予想される。
- (4) 今後抑制作型において、TYLCVを保有したタバココナジラミの発生が増加すると、黄化葉巻病の多発が懸念される。

発病初期の様子



症状が進んだ様子



[防除対策]

1 生育期の感染拡大防止

- ・ 圃場周辺や施設内には、銀色反射資材（UV シルバー等）を設置し施設内へのコナジラミ類(成虫)の侵入を防止するとともに、黄色粘着テープ等を設置し施設内に侵入したコナジラミ類(成虫)を誘殺する。
- ・ 定期的に黄色粘着テープのコナジラミ類誘殺状況を確認し、発生初期の薬剤防除を徹底する。
- ・ コナジラミ類(幼虫)は葉裏に多いため、薬剤散布の際は葉裏に十分薬液がかかるよう丁寧に行う。
- ・ コナジラミ類の薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う（参考：表 1）。
- ・ 発病株は伝染源となるため、直ちに抜き取り、表 1 を参考に防除し、1 週間後にもう一度防除する。
- ・ 抜き取った株や芽かきした茎葉も伝染源となるため、ビニール袋に入れて枯死させてから持ち出す。
- ・ 施設内外の雑草や野良生えトマトは、コナジラミ類の増殖源となるため、定期的に除去する。
- ・ 設置している防虫ネットに破損がないか定期的に確認し、見つけ次第補修する。

2 栽培終了後の残渣処理

- ・ 栽培終了後、株は根元から切断し、十分枯らしてから施設外に持ち出す。
- ・ コナジラミ類は低温に弱いため、厳冬期は施設を開放して低温条件にし、施設内での越冬を防ぐ。

表 1 生育期におけるコナジラミ類に登録のある主要な薬剤

系統： RAC コード	農薬名	希釈倍率	使用時期 (収穫前日数) 使用回数 (制限)	マルハナバチ 影響日数
4A	ベストガード水溶剤	1000～2000 倍	前日－3 回	10 日
	スタークル顆粒水溶剤	2000～3000 倍	前日－2 回	14 日
	アルバリン顆粒水溶剤			
	モスピラン顆粒水溶剤	2000 倍	前日－3 回	1 日
5	ディアナ S C	2500 倍	前日－2 回	不明
	ダブルシューター S E	1000 倍	前日－2 回	3 日
6	アフーム乳剤	2000 倍	前日－5 回	2 日
	アニキ乳剤	1000～2000 倍	前日－3 回	不明
	コロマイト乳剤	1500 倍	前日－2 回	不明
9B	コルト顆粒水和剤	4000 倍	前日－3 回	不明
23	モベントフロアブル	2000 倍	前日－3 回	不明
28	ベネビア O D	2000 倍	前日－3 回	1 日
30	グレーシア乳剤	2000 倍	前日－2 回	1 日
34	ファインセーブフロアブル ^{※1}	1000～2000 倍	前日－3 回	1 日
—	サフオイル乳剤	300 倍	前日—	1 日
	フーモン ^{※2}	1000 倍	前日—	翌日 (24h)
<p>※1 ファインセーブフロアブルはタバココナジラミ類（シルバーリーフコナジラミ含む）適用 ※2 フーモンは野菜類登録</p>				